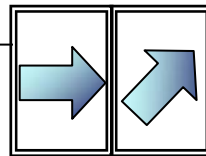


経済フローチャート

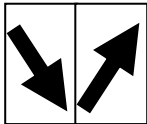
～日本経済の現状と6ヶ月見通し（1月5日時点）～

国内景況感

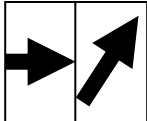
海外景気の鈍化に伴う輸出の低迷を主因として、景気は踊り場となっている。当面、停滞感の強い状況が続くと見込まれるが、年後半には、海外経済の緩やかな持ち直しや復興需要の顕在化が期待できるため、景気は徐々に回復に向かうと予想される。



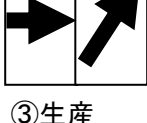
①世界経済



②輸出



③生産



④企業収益



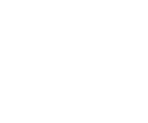
③生産



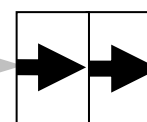
④企業収益



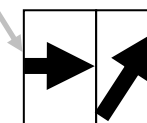
⑥雇用・賃金



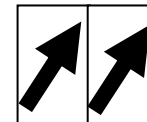
⑦個人消費



⑧住宅投資



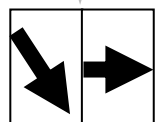
⑨公共投資



⑤設備投資



国内需要



⑩物価

(注) 矢印の方向は、各種関連統計、当社経済見通しなどを勘案して、判断している。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・2012 年前半は、世界景気は欧州財政問題の悪影響の広がりを懸念した金融市場の混乱などによって成長ペースが抑制される公算が大きい。年後半は、巨額な財政赤字を抱えた主要先進国が緩やかな成長にとどまる中で、新興国が金融緩和などにより再加速することによって、世界景気は成長ペースを小幅速めると予想される。 ・米国経済は、金融緩和、低水準の在庫などに支えられるものの、減税の一部終了など財政による押し上げ効果の弱まり、輸出の鈍化などにより緩やかな拡大にとどまろう。 ・ユーロ圏経済は、ドイツ経済が全体を下支えするものの、債務問題の広がりを回避するための財政規律の強化、金融市場の混乱などにより、低成長が続くと見込まれる。 ・アジア経済は、これまでの金融引き締めやこのところの資金流出によって昨年の高成長からは減速するが、中国、インド主導で堅調さを維持すると予想される。
②輸出	海外景気の減速や円高を背景に、輸出は足元で頭打ちになっている。当面、低迷が続くと見込まれるが、年後半には海外景気の持ち直しを背景に徐々に回復に向かうと予想される。
③生産	輸出の低迷を主因として、生産は頭打ちになっている。当面、生産は横ばい圏内の動きにとどまると予想されるが、年後半には輸出の持ち直しや復興需要の顕在化を主因として緩やかに上昇すると予想する。
④企業収益	生産の減速や円高が下押し要因となり、企業収益の改善ペースは鈍い。年後半にはこうした悪材料が徐々に解消されていくことで、緩やかな持ち直しが期待される。
⑤設備投資	景気の先行き不透明感が高まっていることから、企業が慎重姿勢を強めつつあり、設備投資も弱含みとなっている。こうした状況は今後も続くとみられ、低調な推移が続く可能性が高い。もっとも、復興需要による下支えが期待されることから、大幅な落ち込みは避けられる見込み。
⑥雇用・賃金	大震災発生後は雇用が減少していたが、足元では下げ止まっている。先行きは復興需要に伴って建設業を中心に増加が期待できるが、景気の先行き不透明感の強まりから企業が採用を手控える可能性があり、改善ペースは緩やかなものにとどまる見込み。
⑦個人消費	雇用・賃金に回復がみられないことに加え、消費者心理の改善にも頭打ち感が出るなど、消費を取り巻く環境は芳しくなく、個人消費は低調に推移している。当面、こうした状況が持続すると見込まれる。
⑧住宅投資	復興需要の顕在化が遅れており、低水準の着工が続いている。もっとも、2012 年度には復興需要も徐々に顕在化すると見られ、住宅投資は緩やかに改善すると予想される。
⑨公共投資	11 年度補正予算の効果から増加が続いている。第3次補正予算についても、12 年度入り以降執行が本格化するとみられ、公共投資は増加が見込まれる。
⑩物価	景気減速に伴って、需要不足度合いが強まる可能性が高いことに加え、エネルギー価格のプラス寄与縮小が予想されることから、消費者物価指数はマイナス幅が緩やかに拡大する見込み。